

世界遺産登録に向けて

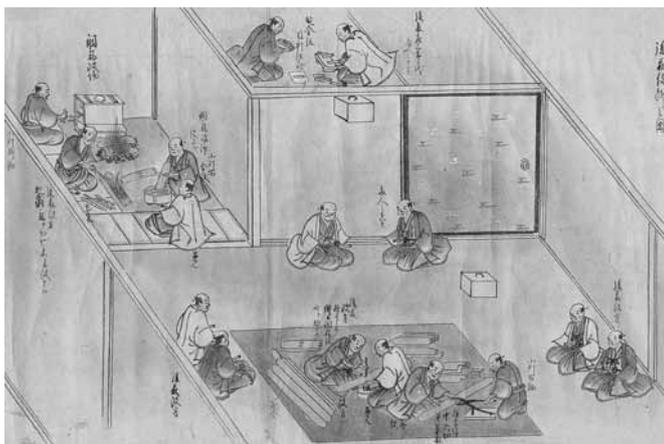
佐渡金銀山絵巻をひもとく(17) — 後藤役所 — 銅気目利き

「竹流し金」を長さ90cm・幅6cm・厚さ0.16cmに叩き延ばした延金は、小判を仕上げる後藤役所に渡されます。後藤役所では、この延金の中ほどの両側に1か所ずつ極印を打刻し、その極印の間を切って延金を2つに分けます。

その片方を、小判の基準となる「手本金」と比べて品質鑑定をするため、縦に15cmほどの長方形に切り取り、別の片方は、中ほど両側を少し削り、「銅気改場」へまわして加熱し、表面を細く切った檜の木切れで数回こすり、燃える炎の色具合で銅気の有無を調べます。炎が緑色になるものは銅が混じっているので除かれます。合格したものは極印を打ち、小判所へまわします。

品位検査を終えた延金は、「荒切」といって、小判に仕上げたとき目方不足にならないよう、やや重めの3匁6分(13.5g)に切り分けます。これを「荒切金」といい、1枚の延金から120枚前後できます。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



後藤役所の図

延金に極印を打刻してから切り分ける(中央下)。銅気を調べるために片方の中ほど2か所を削り、檜の木切れでこすり炎の色を見る(左上)。図の中央上では手本金と比べている。※後藤役所は、現在の相川病院の場所にあります。

「上相川地区」が国史跡に指定されました

江戸時代に相川金銀山を支えた山師や鉱山労働者などが居住した、重要な鉱山集落跡であると考えられている「上相川地区」が、平成25年3月27日に国史跡佐渡金銀山遺跡に追加指定されました。

「上相川地区」は、16世紀末から17世紀初頭、相川金銀山の開発に伴い成立した鉱山集落で、鉱山都市相川の礎ともいえる遺跡です。

集落は、明治時代に廃絶し、遺跡となりましたが、今でも斜面を造成した平坦地や石垣、道路跡・寺社跡等が良好に残されており、上相川千軒と呼ばれた江戸時代の最盛期の様子を物語っています。

お問い合わせ

市役所世界遺産推進課
☎63-5136



新潟県高等学校文化連盟
写真専門部主催

第17回撮影大会 ・佐渡大会 が開催されます

日時 5月23日(休)～5月25日(土)
会場 ニツ亀周辺、国中平野、
小木方面の3か所を中心に島
内全域で実施

県内の高校生約350人が一堂に集まり、佐渡を舞台に風景や人物などを撮影する大会です。生徒の皆さんへの暖かいお声掛けや、被写体(モデル)のお願いがありましたら、撮影へのご協力をお願いします。

お問い合わせ

市役所観光振興課
観光振興係
☎63-5116